



詩

お月さま

白浜小二年 並木 卓

お月さまをよく見ると
へんなかげが見えるよ。
二ひきのうさぎが
もちをついているようなかげだよ。
きれいだよ。
きつと
うさぎは、
お月さまにそだてられているんだよ。
かわいがっているんだよ。
だから
お月さまは、
うさぎをとられないように
たかいたかい空の上にいるんだよ。



目

白浜小四年 椎名 清和

目は、ふしぎだなあ。
目は、二つあるのに、
物が一つに見える。
ぼくは、かた目をつぶって
それでもやっぱり一つに、
見える。
こんどは、家を見た。

右目をつぶって、一秒ぐらい、
左目つぶって一秒ぐらい。
つぎつぎとやっているうちに、
家が動いたように見えた。
目を大きくひらいていると、
つかれてくる。
どうしてだろう。
目は、やっぱりふしぎだなあ。

かいせんとう

白浜小二年 金すぎ ゆうじ

かいせんとうを
くるくる まわしたら、
目もくるくる まわりました。
まわりのけしきも、
くるくる まわりました。
でも、

なんかいも やっていると、
だんだん
目が まわらなくなりました。

海

白浜小六年 小倉 弘之



春、
波はおだやかで、
浜辺では小鳥たちがさえずっていた。
沖では、かげろうがゆらゆらゆれていた。

夏、
海は太陽にてらされ、
観光客のわらい声を、
ほほえみながらながめていた。
海はとてもやさしかった。

秋、
海は台風につつまれ、
今までのことがうそのようにあれ始めた。
いつもやさしかった海が、
おにのようなすごい顔でさげんでいた。
今までに見たことのない海だった。

冬、
海は静まりかえっていた。
人かげもなく、
ただ静かに
波の音がきこえるだけだった。

せつかくのいい気候だというのに、気分が何かうつとおしい。環境が大きく変わる春は、いわゆる「五月病」の出やすい季節です。
誰にもあるストレスを軽く上手にのり越えましょう。
マジメ人間ほど
かかりやすい五月病

毎年五月ごろになると、うつ病のような症状に悩む人がいます。特に多いのは、この春社会に出たばかりの新入社員。そして働きざかりであるはずの40歳代くらいの中堅サラリーマン。仕事はもちろん、すべてに自信がなくなり自分はダメな人間だと思いがいつもつきまとうといった症状です。

この通称「五月病」とよばれる心の病気は、春に訪れた急激な環境の変化に対応しきれないというところから起こっています。のんびり自由な学生生活から実社会でのきびしく責任のある毎日。また転勤や人事移動による新しい職場やより大きな責任ある仕事。これらに対してきちんと対応しようとするが、もうひとつ思うようにうまく運ばない。こんな状況でも、たいていの人は楽天的に考えたり、誰もが同じような気持ちなのだろうと思うことで切りぬけるのですが、神経質すぎる人はここで行きづまってしまいがち。だからこの病気にかかる人は、決まって気まじめでものごとをキチンとしないと気のすまない神経質なタイプの人です。
もともと「五月病」は、たとえば精神分裂症のような重い精神病ではなく、状況的因子が強いものですから、予防や治療も十分可能です。悪くこじらせてしまうと、本物の精神病にまで進んでしまうこともあるので早目の処置が大切です。